生誕100年 畠山義郎

「冬日、鴉」

新雪をまぶり
新雪にまぶれ
浴する鴉
誰のために粧う
厳冬に向って
漁り
どんらんの食に
充足があったか

眩しい冬の日射し

この詩は昭和三十年代半ば、高度成長に入ろうとする頃のもので、短い詩ではあるが、義郎の心の原点だとNHKで放送された人生読本の中で語っている。

平成六年、大野台のひまわり公園に「冬日、鴉」が刻まれた畠山義郎の詩碑が建立された。揮毫は本荘市在住の佐々木青洋であった。当時の新聞には本人も共にその完成を祝った記事が紹介されている。

義郎生誕百年の今年、「十月一日移転」と新たに彫られて詩碑は愛生園そばに移設された。

出羽丘陵の北東端に土着するもの

丘陵という山脈
毎日の太陽は出羽丘陵に沈む
数十米から数百米
撫肩の出羽美人が
手と手を繋いで
最上川の右岸から
私の住むすぐ近くの
米代川の左岸へ消える

「出羽丘陵とビレネー――地図に住む人」より

【展示内容】

- 義郎の生涯について
- 自筆原稿
- アンソロジストとして
- 交遊した詩人たち
- 義郎の詩集　全十作品（初公開の原本など）
- 創刊にかかわった詩誌
- 同時代の人々の証言

など

あきた文学資料館

開催期間　令和6年10月1日（火）～12月26日（木）
開館時間　10時00分～16時00分
休館日　毎月曜日
場所　秋田市中通6－6－10
電話　018－884－7760
入館観覧　無料

生誕100年 畠山義郎

出羽丘陵の北東端に土着するもの

令和6年10月1日（火）～12月26日（木）

【文学講座】
令和6年11月10日（日）
13時30分～15時
「畠山義郎の詩的生涯」
秋田大学名誉教授　佐々木久春
要申込、定員30名、入館・聴講無料

あきた文学資料館

開館時間　10時00分～16時00分
休館日　毎月曜日
場所　秋田市中通6－6－10
電話　018－884－7760
入館観覧　無料